

本多上野介正純公を学ぶ市民の会 活動内容

正純公は何故、横手で悲運の生涯を終えたのだろうか？
みんなで歴史を学び合い、すこしでも史実に近づこうと、
平成16年10月16日に活動をスタートしました。

これまで、正純公を知るための学習会の開催や墓碑環境の整備を進めているほか、正純公と縁の深い大仙市大沢郷（横手に配流される前に正純公が一時留め置かれた場所）や宇都宮市と交流するなど、精力的な活動を展開しています。

特に、宇都宮城の復元活動を行っている市民団体「よみがえれ！宇都宮城 市民の会」の皆様とは、本会の設立当初から交流を行っており、宇都宮城復元のための募金活動を横手市でも実施するとともに、「うつのみや城址まつり」や「宇都宮城復元祭」（平成19年3月）、「宇都宮城四季の華遊園」に参加して参りました。

「よみがえれ！宇都宮城 市民の会」の皆様からは、正純公にまつわる「うめどき」を寄贈いただくなど、単なる市民団体の交流の枠にとどまらず、横手市と宇都宮市のまちづくり交流に大きく寄与しています。

また平成23年10月1日には、本多家第14代、第15代宗主の御臨席のもと、本多上野介正純公墓碑移設、嫡子出羽守正勝公墓碑新設落慶法要を営みました。

今後も本会では、正純公にまつわる歴史を学びながら交流の輪を広げ、正純公正勝公ゆかりの地横手から全国各地に活動を発信して参ります。



落慶法要（平成23年10月1日）

本多上野介正純公関係年表

西暦（年号）

事項

（一五六五）（永祿 八）
三河国生れ、幼名・千穂、通称・弥八郎
父・本多正信、母・不詳

（一六〇一）（慶長 六）
従五位下 上野介に叙任
下野国小山及び近江国に三万三千石を拝する

（一六〇五）（慶長一〇）
徳川家康、将軍職を秀忠に譲る
正純、大御所家康の筆頭側近となり敏腕をふるう

（一六一四）（慶長一九）
大久保忠隣改易、大坂冬の陣

（一六一五）（元和 元）
大坂夏の陣、総堀埋め立て奉行となる

（一六一六）（元和 二）
家康、駿府で死去、正純は秀忠政権に合流、
秀忠側近の土井利勝らと確執が生ず

（一六一九）（元和 五）
下野国佐野の二万石加増で五万七千石となる
福島正則改易となる
小山から宇都宮に転封、一五万五千石となる

（一六二二）（元和 八）
秀忠、日光参詣の帰路、宇都宮宿泊を変更し岩槻に宿泊
正純、山形最上義俊の城請取役の命を受ける

（一六二三）（元和 九）
正純の領地没収、由利郡の本城へ転封を命ぜられる、五万五千石
幕府が佐竹氏に由利領内の諸城を破却させる
正純、新領地返上を幕府に願い出て認められる

（一六二四）（寛永 元）
本城から大沢郷に移される、厨料千石

（一六二六）（寛永 三）
正純父子、佐竹義宣に身柄を預けられ、大沢郷から横手に移される
根岸の高台に居住する

（一六三〇）（寛永 七）
保護嚴重になり、看守人をつけ出入りを禁止する

（一六三三）（寛永一〇）
本多正勝死去、享年三五歳 横手城下、大儀山正平寺にて葬儀を行う
法名「傑叟院殿雄山英公大居士」

（一六三七）（寛永一四）
佐竹義宣死去、享年六四歳

（一六三三）（寛永一〇）
二月二十九日、本多正純死去、享年七三歳、葬儀は三月四日正平寺に於いて執り行う
法名「慧光院殿鐵顔宗智大居士」



宇都宮城清明台の本多家家紋の大瓦